

朝鮮語における漢語の用法について

水 野 義 明

1. は じ め に

日本語と朝鮮語との類似については、あらためてここで取り上げる必要もないと思う。両者は、同系であるとの確証は未だ得られていないが、その文法構造が酷似している点で共にアルタイ語族に属するという推定が可能である。一方本来の構造上の類似とは別に、両者の語法上の共通点もかなり多い。擬声語起源の語彙の豊富なこと、敬語法の発達していること、印欧語に普遍的に見られる名詞、形容詞の性、数、格、人称が文法的カテゴリーとしては存在しないこと、また動詞の時制、法、相、態についても未発達なこと（少なくとも印欧語的な総合的手段によってはこれらのカテゴリーを表現しないこと）等々、いずれも日朝両語に著しい共通点である。

しかし、これらの点以外にも日本語と朝鮮語とを読み比べてみて最も目につく現象は、両者とも所謂「漢語」が非常に多く用いられているということである。これは古来中国という強大な文化圏の縁辺に位置し、絶えず中国文明の影響を受けてきた日朝両民族の歴史を考えれば、当然のことではあるが、両民族の中国文明に対する関与の度合が異なるのに応じて、日朝両語に対する中国語（漢語）の影響の程度も自ずから相違している点に注意すべきである。

この相違の中でも漢語の発音の相違については、前稿「朝鮮語における漢語の読み方について」（「明治大学教養論集」，通巻 61 号，1971 年 1 月）の中でその概要を述べたのであるが、本稿では日朝両語における漢語の用法の異同につ

いて略述したいと思う。

本文中用例の表記には印刷の便宜を考えてハングル(朝鮮語固有の表音文字)をすべてローマ字化した。その際ハングルの各字母をそのままローマ字に転写したので、実際の発音とはやや異なっている。

(例) ①日本語, ②本稿での表記(ハングル字母の転写), ③実際の発音

- ① 漢語の読み方
- ② 漢語 (han-ǒ)-ŭi ilg-nŭn bang-bŏb
- ③ /ha-nŏ-ŭi ing-nŭn bang-bŏ^b/

なお、朝鮮語音の転写については、前掲「朝鮮語における漢語の読み方について」の中でも私案を提出しておいたが、本稿では実際の便宜を考慮して別個の方式を採用することにした。すなわち梶井 渉「わかる朝鮮語」を参考にし、現行のラテン文字のみを用い、補助記号もなるべく少くするようにした。本稿での、ハングル字母とローマ字との対応関係は次の通りである。

母 音

a	ㅏ	yu	ㅠ	wa	ㅘ
ya	ㅑ	ŭ [u]	ㅡ	wä	ㅚ
ǒ [o]	ㅓ	i	ㅣ	ö [ø]	ㅟ
yǒ	ㅕ	ä [æ]	ㅝ	wǒ	ㅛ
o	ㅗ	yä	ㅞ	we	ㅜ
yo	ㅛ	e	ㅟ	wi	ㅜ
u	ㅜ	ye	ㅟ	üi	ㅟ

子 音

g	ㄱ	ng [ŋ]	ㅇ
n	ㄴ	zh [tʃ]	ㅈ
d	ㄷ	ch [tʃʰ]	ㅊ
r, l	ㄹ	k [kʰ]	ㅋ
m	ㅁ	t [tʰ]	ㅌ
b	ㅂ	p [pʰ]	ㅍ
s	ㅅ	h	ㅎ

なお右肩に小さく記した文字 (ㄱ, ㄷ, ㄱ, ㅂ) は終声 (g, d, s, b が調音される位置にあるのみで実際は無声) を示す。

2. 日本語と同様の用法

まず韓国の総合雑誌の論説から、次の一節を引用してみよう。(『月刊中央』 p. 77 中央日報社, ソウル, 1971年2月号)

① 原文転写

chö-gŭn 「mi-si-ma」(三島由紀夫) 割腹事件-ül gye-gi-rŏ 日本-ŭi 右傾化
gyŏng-hyang-i zha-zhu zhi-zhŏg-dŏn-da. 日本-ŭi 国防予算-ŭi 増額, 憲法9条
-ŭi 改正-ül yo-gu-ha-nŭn pog-nŏlb-ŭn yŏ-ron, gŭ-ri-go 日本-ŭi 自主精神-i i-rŭl
dwis-bad-chim-ha-nŭn-dŭs 論議-ŭi dā-sang-i dŏn-da. dŏ-bur-ŏ 日本-i 右傾化-hal
gyŏng-u 『日本-ŭn 軍事偏向的-in zhŏng-chäg-ül chu-gu-hal gŏs-in-ga』 ha-nŭn
mun-zhe-do ir-ŏ-nan-da.

原文だけみても、内容がおぼろげながら察せられるが、更にハングルで書いてある漢語も、漢字になおしてみると、一層明瞭になってくる。

② 漢字まじり文

最近「ミシマ」(三島由紀夫) 割腹事件-ül 契機-rŏ 日本-ŭi 右傾向傾向-i zha-zhu 指摘-dŏn-da. 日本-ŭi 国防予算-ŭi 増額, 憲法9条-ŭi 改正-ül 要求-ha-nŭn pog-nŏlb-ŭn 与論, gŭ-ri-gŏ 日本-ŭi 自主精神-i i-rŭl dwis-bad-chim-ha-nŭn-dŭs 論議-ŭi 対象-i dŏn-da. dŏ-bur-ŏ 日本-i 右傾化-hal 境遇『日本-ŭn 軍事偏向的-in 政策-ül 追求-hal gŏs-in-ga』 ha-nŭn 問題-do ir-ŏ-nan-da.

以上を念のために訳出すると,

③ 日本語訳

最近「ミシマ」(三島由紀夫) 割腹事件を契機として日本の右傾化傾向がしばしば指摘される。日本の国防予算の増額, 憲法9条の改正を要求する広汎な(原意「きわめて広い」)与論, そして日本の自主精神が, これをうしろだてするように, 論議の対象となっている(原文「なる, される」)。(それと)共に日本が右傾化する場合『日本は軍事偏向的な政策を追求するであろうか(原意

「～のことか」)』(と)という問題も起こる。

③の訳文中下線を引いた漢語は、いうまでもなく用法、意味の点で日本語のそれと全く同様である。最近の朝鮮語では、漢字をできるだけ使わないようにしているので、漢語が多数用いられている文章でも、全文をハングルで書くことが多い。たとえば、

sǔng-zha-ga iss-ǔ-myŏn ban-dŭ-si pǎ-zha-ga iss-ge ma-ryŏn-i-da. mal-ha-zha-myŏn sǔng-zha-wa pǎ-zha-nŭn in-sǎng-ŭi sug-myŏng-zhŏg-in gyŏl-mar-i-da.
(雑誌「sǎm-to」1971年6月号, p. 17)

以上を漢字まじり文にすると、

勝者-ga iss-ǔ-myŏn ban-dŭ-si 敗者-ga iss-ge 磨鍊-i-da. mal-ha-zha-myŏn 勝者-wa 敗者-nŭn 人生-ŭi 宿命的-in 結末-i-da.

この訳文は、

勝者がいれば必ず敗者がいるのような次第である。言うなれば勝者と敗者は人生の宿命的な結末である。(下線部は日朝共通の漢語)

次に、任意に取り上げた文芸雑誌の或る論説の最初の1ページを逐語的に訳出し、日朝共通の漢語を指摘してみよう。(「月刊現代文学」現代文学社、ソウル、1971年7月号, p. 338~9, 朴喆熙「韓国詩の思想的パースペクティブ——ひとつのカルテ」)

「今日韓国の詩が、もっとも進歩的だと自負するこの国知識人の関心の外にあるという姿体(自体?)が、今までの韓国詩人達の詩的業績が読者達の共感を同伴し得なかったという事実と無関係ではない。芸術が人間の認識行為であり、精神的実相であるならば、それを保証してくれるものは、他でもない共感である。したがって共感の喪失はすなわち芸術家と読者の分裂である。それ

は、望ましい韓国社会の構造と詩人の想像力の乖離を意味し、相互間に共通紐帯がなく相互協力体制を構築し得ないでいることを物語っている（原文「言っている」）。このように、韓国社会の構造と詩人の想像力のあいだの両極化は、文化発展において最も矛盾した（原文「された」）局面として現われて、それに劣らず（原文「劣らないように、ほどに」）相互間が未来に対するイメージが相剋する（原文「される」）とき、そのような不均衡は一層加重化されることであるのは、再説する必要すらないところであるが、まさにそのような不均衡は今日に限ったことでなく、すでに韓国の新文学が始まるとともに露出されていた（とする）ならば、どんな意味で見ても、全然問題にならないことはない。そしてこの問題は何より格別な重要性を帯びるように思う。

このような現実を目前に置くとき、必然的に韓国詩の現況把握が先行されねばならないことは勿論、現実的状况と連（聯）結してそれに反応する詩人の想像力の中からその解答は準備されねばならないであろう（原文「ならないことだ」）。事実、このような関連性の欠乏は、大衆の生理に知識人が浸蝕されているという事実と、それに面をそむける詩人の想像力との相互論理に関連させられる。そしてこれはただ我々の場合だけではなく、その原因を必ず詩人達の故意的な文学的難解性や、知識人達の知的俗物根性にさかのぼる（原文「戻す」）ことができるかも知れない。万一それが事実であるならば、このような詩人は反民主的な分子だとみなして非難しても差支えないだろう。」

以上の諸例からも推察されるように、現代朝鮮語の標準的書き言葉には、日本語と意味や用法が共通の漢語が非常に多く使われている。この点を念のために辞書によって検討してみたところ、次のような結果を得た。（金素雲編著「精解韓日辞典」微文出版社、ソウル、1967年1月初版、1969年12月5版、本文1121ページ）

① 第250ページ

a 見出し語数 45

b 漢語（または漢語を主要成分とする語句） 39

c そのうち日本語の漢語としても通用するもの 33

大腿，大破，大平原，大砲，*大幅，代表，*大風，待避，代筆，大河，大廈，*貸下，対(する)，*帶下症，大学，大学校，大学者，大旱，大寒，大韓帝国，*大蛤，*待合室，対抗，大害，大海，代行，大絃，大賢，大兄，*大形，大火，大禍，対話

*印をつけたものは日本語では訓読みする。以下の例でも同様：

② 第500ページ

a 52

b 28

c 21

上下，*傷つく，傷寒，相合，商港，傷害，桑海，詳解，商行為，上弦，象形，相互，商号，商魂，償還，状況，商況，商会，常会，賞勲，傷痕

③ 第750ページ

a 49

b 33

c 22

字解，字形，慈恵，自号，字号(活字の大小など)，自画像，自画自讃，自活，字画，字訓，勺，作，爵，作家，作曲，昨今，昨年，酌量，炸裂，作文，作物，*雀斑

④ 第1000ページ

a 51

b 30

c 25

毫釐，胡馬，浩茫，豪邁，呼名(名を呼ぶこと)，毫毛，浩渺，好物，湖

畔，毫髮，豪放，好辞，戸別，胡兵，胡服，豪富，好否，豪奢，豪士，好事，孤状，胡商，壺状，壺觴，豪商

ここに挙げた数値は辞書の任意の数ページを抽出した結果であり，正確度は保証し難いが，それにしても日朝両語の漢語使用について，おおまかな傾向が推察できると思う。上述①②③④を集計すると次のようになる。

a 見出し語	197	100%
b 漢語（または漢語を主成分とする語句）	130	b/a 66%
c 日本語と共通の漢語	101	c/a 55%

すなわち朝鮮語の語彙のうち少くとも半分は漢語が占めている。また b と c についてみると， $b : c = 100 : 78$ となる。すなわち漢語語彙に限っていえば，日朝両語は実に 7 割から 8 割を共有していることになる。

ついでにこの間の事情を中国語について比較してみると，前掲の金素雲編著「精解韓日辞典」とほぼ同規模の中日辞典で，同ページの個所 4 個書を試算した結果は次の通りである。（鐘ヶ江信光「中国語辞典」大学書林，1960年第 1 版，1969年第 29 版，本文 1157 ページ）

第 250，500，750，1000 の各ページの集計結果

a 見出語数（親字を算入せず）	207
b 日本語と共通の漢語	14

良心，跟跟踉踉，梁木，梁山泊，梁上君子，量入為出，似是而非，伺候，肆意，松膏，松菌，赭黄，赭色，赭石

$a : b = 100 : 7$

ここで比較に用いた「中国語」とは北京語に基く，いわゆる「普通語」である。北京語は中国語の諸方言の中では音韻，形態の両面に亘って歴史的変化が最も著しいとされているが，一方日本語に入った漢語の大部分は借入当時の古義古形を保存しているので，現代の時点で両者を単純に比較すればこのような結果の出てくるのも当然かも知れない。それにしても，全文漢字を用いている中国語（北京語）には日本語と共通の漢語が意外なほど少ないということは注目に価すると思う。同じ漢字を用いていても中国語は日本語とは全く異系統

の言語であるという事実を如実に感じさせるものである。

これに対して朝鮮語の漢語は、日本語のそれと同様に、借入当時の古義古形を保存しているものが多く、また一方では日本語の漢語語彙をも大量にとり入れているので、上述のような日朝両語の広汎な漢語共有現象が生じたのである。

この「共有現象」は単に語彙面にのみ限られたことではなく、漢語の用法全般に亘っても日朝両語はほぼ対応している。以下に主要語類について概説したい。

名詞 格助詞等の小詞を添えて文中で一定の機能を果す。

大学-ũn, 学生-ũl, 駅-e-sǒ, 都市-ũi

(大学は) (学生を) (駅から) (都市の)

英語-rǒ, 日本-e, 教師-ro-sǒ

(英語で) (日本へ) (教師として)

形容詞 漢語に活用接尾辞(主に-ha-da)を添える。日本語ではおおむね形容動詞にあたる。日本語と同様、語尾変化により連用形、連体形などの機能を果す。

華麗-ha-da, 適当-han, 正確-ha-jǒ, 完全-hi

(華麗だ) (適当な) (正確で〈連用〉) (完全に)

また漢語に「〜的」をつけて形容詞とするのも共通である。

日本的 (-ha-da), 世界的 (-han)

(日本的(だ)) (世界的(な))

数詞など 固有の数詞のほかに、「イチ (il)」「ニ (i)」「サン (sam)」など漢語起源の数詞を使用する。またいわゆる数量詞にも漢語を用いることが多い。

金一両 (gũm han-nyang), 飛行機二台 (bi-hāng-gi du-dǎ), 詩三首 (si sam-su), 石油五升 (sǒg-yu o-sǔng)

(下線は固有の数詞)

動詞 形容詞と同じく漢語に活用接尾辞を添える。日本語のサ行変格活用に相当する。

便乗-ha-da, 溺愛-ha-nŭn, 腐心-ha-yŏ-do

(便乗する) (溺愛する〈連体〉) (腐心しても〈連用〉)

ちなみに欧米外来語についても同様に動詞化することができる。

sŭ-ke-i-tŭ-ha-da, dān-sŭ-ha-nŭn

(スケートする) (ダンスする〈連体〉)

副詞 一般には形容詞の語幹に -i をつける。(日本語では形容詞〈漢語の場合は形容動詞〉の連用形が用いられる。) しかし漢語由来の形容詞にはふつう -hi がつく。

確實-hi, 勤勉-hi

(確実に) (勤勉に)

また漢語語幹だけで副詞機能を果す場合もある。

突然, gŭ 瞬間, 約, 万若, 結局, 百円超過-ha-da

(突然) (その瞬間) (約) (万一) (結局) (百円超過する)

以上述べてきたところにより、日朝両語の漢語の用法は、全く一致するといってもよいほどである。しかし漢語そのものをとりあげてみるときに、両国語の間にかかなりのズレがあることも事実である。前掲の試算 (p. 55) によれば、朝鮮語の漢語の2割から3割は、日本語では常用されないことになる。朝鮮語における漢語の用法を問題とするときには、日本語のそれとの相違の方が、むしろ重要である。以下に節をあらためてこの点について略述したい。

3. 日本語とは異なる用法

a. 朝鮮語の漢語はすべて音読される。

この小論は漢語の用法を扱うものであるから、漢語の発音については述べてこなかった。(朝鮮語の漢語の発音の概略については、前掲の「明治大学教養

論集」第61号の私の論文を参照されたい。)しかし、この節でとりあげる日朝両語の漢語用法の相違という問題には、発音のことも多少関係してくるので、前稿の補説の意味も兼ねて、ここで簡単にふれておきたい。

まず、ごく少数の語を除き、朝鮮語の漢語はすべて音読され、しかも一字一音の原則に基いていることに注意すべきである。逆に言えば朝鮮語では、ふつは漢字、漢語の訓読はしないということである。次の例を参照(カッコ内は、日本語にも朝鮮語式の慣習があったと仮定して、その語感を伝えるために補足した。)

2割 (i-hwal) 割引 (hwar-in)-ham

2割 割引き (すること)

(2カツ カツイン (すること))

取扱 (chwi-gŭb)-ŭl 当 (dang)-ha-zhi anh-ŭ-myŏn

取扱いを 受けなければ

(シュキュウを トウしなければ)

漢語に同義の固有語を添えることもある。

公共機関(gong-gong-gi-gwan)-e-sŏ 引受(in-su)-bat-ge dŏn-da.

公共機関で 引受けるように なる。

(コウキョウキカンで インジュ受けるように なる。)

日本語で訓読みする熟語も音読する。

不遠(bul-wŏn) 鈍化(dun-hwa)-dŏ-nŭn 習性(sŭb-sŏng)

遠からず 鈍化される 習性

(フエン ドンカされる シュウセイ)

雨天(u-chŏn)-e-do 不拘(bŭl-gu)-ha-go

雨天にも かかわらず

(ウテンにも フコウして)

このほか

引上, 待合室, 立場, 場所, 組合, 株式会社
など多数の例がある。

日本語にある「重箱読み」「湯桶読み」は存在しない。漢語を訓読する代りに、固有語をハングルのままつける。

双 (sang)-da-ri,	金 (ǔm)-don,	銀 (ǔn)-don,	zhib-貰
両 脚	黄 ^こ 金 ^{がね} , 白 ^{しろ} 金 ^{がね}	家 賃	
(両あし)	(キンがね, ギンがね)	(いえセイ)	

以上のような朝鮮式の漢語の読み方は、後に述べる朝鮮語の漢語構造の特色にも関連していることである。以下ではまず日朝両語のそれぞれにおける漢語の占める位置について検討しようと思う。

b. 朝鮮語では漢語の数もその果す役割も日本語よりも遥かに大きい。

同じく漢語の影響を強く受けているといっても朝鮮語における漢語の比重は日本語を遥かに上まわっている。朝鮮語の漢語法は、言語の基本的な語彙構成の中にしっかり定着しているように見える。ふつう「ヤマ」(山)「カワ」(川)は, san, gang (江) という。日本語にあてはめれば「サン」「コウ」である。「あなた」にあたる最もふつうの語は「当身」(dang-sin, 「トウシン」) である。次ぎにあげる語はいずれも日常語である。

chang, chang-mun	窓, 窓門	(まど)
mun-zhi-bang	門地枋	(しきい, 敷居)
chäg, chäg-sang	冊, 冊床	(本, つくえ)
ban-chan	飯饌	(おかず)
chan-zhang	饌穢	(〈台所の〉戸棚)
sŏn-mul	膳物	(みやげ)
son-zha	孫子	(まご)

myŏn-do	面刀	(かみそり)
sǎng-gag (-ha-da)	生覚	(考え (る))
bu-zha (-ga dö-da)	富者	(金持ち (になる))
zhīb-ŭl na-ga-gi zhŏn-e	… ^{ぜん} 前e	(家を出る ^{まえ} 前に)
gŭ dä-sin	gŭ 代身	(その代り)

漢語には元来同音異義語が多く、その不便を避けるため二字以上の複合語形態をとることが多い。しかし朝鮮語では漢字一字を語幹とする語句がかなり存在する。病 byŏng (病気), 薬 yag (くすり), 窓 chang (まど), 山 san (やま), 江 gang (かわ) などが一字だけ音読されて日用語彙となっていることは、日本語ではあまりない。このほか次ぎの例にも注意すべきである。(漢字はもちろん音読される。)

盛-ha-da (元気だ, 盛んだ)	貴-ha-da (貴重だ)
行-ha-da (おこなう)	変-ha-da (変る)
勧-ha-da (すすめる)	便-ha-da (安らかだ, たのしい)
当-ha-da (受ける)	請-ha-da (招く)
親 ha-da (親しい)	求-ha-da (求める)
避-ha-da (避ける)	願-ha-ga (願う)
加-ha-da (加える)	

その他, 依 (ŭi)-ha-yŏ ((~に) 依って), 為 (wi)-ha-yŏ ((~の) 為に), 向 (hyang)-ha-yŏ ((~に) 向かって), 因 (in)-ha-yŏ ((~に) 由って) などの語句にも漢語(漢音)表現が多い。

朝鮮語の漢語が豊富なことは、日朝各語の国語辞典を比較してもよくわかる。試みに「食(しょく, しょっ sig)」「動(どう, dong)」を頭字とする語について調べた結果は次ぎの通りである。(日本語: 西尾実, 岩淵悦太郎編「岩波国語辞典」岩波書店, 東京, 1963年第1刷, 1112ページ, 朝鮮語: 梁柱東監修「dong-a sä 国語辞典」(東亜新国語辞典) 東亜辞書出版社, ソウル, 1965年

1. 「食——」

a 日本語の辞書(下線は全部又は一部を訓読み)

しょく 食中り, 食塩, 食害, 食言, 食思, 食指, 食事, 食餌, 食傷, 食甚, 食人種, 食酢, 食する, 食膳, 食卓, 食通, 食堂, 食道, 食道楽, 食肉, 食パン, 食費, 食品, 食分, 食紅, 食味, 食靠れ, 食物, 食休み, 食用, 食欲, 食糖, 食料

計 33語

しょつ 食客, 食間, 食器, 食券

計 4語

合計 37語

b. 朝鮮語の辞書(*印は日本語の辞書と共通, 以下の例でも同じ)

食価, *食客, 食頃, 食告, 食困症, 食供, 食管, 食交子, 食口, *食券, 食豚, 食菌細胞, 食根, *食器, 食既, 食念, 食単, *食堂, 食代, 食待令, *食道, 食刀, *食道楽, *食糧, 食量, 食禄, *食料, 食母, *食物, 食盤, *食-bbang, 食補, 食福, 食復, *食分, *食費, 食氷, *食事, 食床, *食傷, 食色, 食性, 食細胞, 食-so-ra, 食率, 食水, 食時, 食神, *食言, 食熱, *食監, *食慾, *食用, 食遠服, *食肉, 食飲, *食餌, 食人鬼, *食人種, 食積, 食前, 食紙, *食指, 食饌, 食債, 食滯, 食醋, 食蟲動物, 食蟲-i, 食-kal, *食卓, 食頃, 食貧, *食品, 食稟, 食醢, 食貨, 食後

計 79語

日本語と共通語 24語

2. 「動——」

a. 日本語

動因, 動員, 動機, 動悸, 動議, 動向, 動作, 動座, 動産, 動じる, 動ずる, 動静, 動態, 動体, 動的, 動転, 動物, 動脈, 動揺, 動乱, 動力, 動

b. 朝鮮語

動駕, 動徑, *動悸, *動機, 動動, *動乱, *動力, *動輸, 動摩擦, *動脈, *動物, 動兵, 動蜂, 動不動, 動詞, *動産, 動植物, 動圧力, *動作, 動箴, 動電気, *動静, 動止, 動車, 動天, 動哨, 動塚, 動蕩-ha-da, *動態, 動胎, 動土, *動-ha-da, *動向, 動血, 動滑車, 動蛔

計 36語

日本語と共通 13語

この調査は、ただ見出し語だけを数え上げたものにすぎないので、ひとつ、ひとつの漢語について検討すれば、当然変動を生ずる。たとえば日本語の辞書にはない食菌細胞, 食禄, 食人鬼, 食前, 食後など, 動詞, 動電気, 動滑車などは、ただ採録されていないというにすぎず、文脈によっては日本語でも漢語として通用する。したがって①79:37, ②36:22という比率は多少割引きして考えなければならないであろう。しかし、それにしても、朝鮮語には食桶, 動血などのように日本語の漢語としては（少くとも国語辞典に採用されるものとしては）通常用いられないものが多く、その逆に日本語の漢語の大部分は朝鮮語でも通用しているということは推測できると思う。

漢語を構成している漢字には同音異義のものが多いため、このように漢語の豊富なことは、話し言葉（朝鮮語は漢語の表記にも通例ハングルを用いるので、同時に書き言葉）に大きな混乱をもたらす危険もある。事実、朝鮮語には必要に応じてハングルのあとに該当する漢字を添えて、理解の便宜をはかっている。しかし概して、朝鮮語の音韻構造は日本語よりも複雑で、漢語を区別して表記するのに適しているため、日本語におけるほどの混乱は生じない。この事情が、朝鮮語に日本語より多くの漢語の存在を可能にしている主要な理由だと思う。

以上述べてきたところは、朝鮮語の漢語用法の特殊性を、項目別に分類し、さらに辞書の実際について検討したものである。それでは実際の日朝両語の文章についての具体的状況はどうであろうか。これを知るためには、同一の内容のテキストに対する日朝各語による訳文を相互に比較してみるとよい。ここでは、新約聖書マタイ伝第5章の、よく知られている山上の垂訓の一節を取りあげてみる。

日朝両語とも、旧訳と新訳（口語訳）がそれぞれ出ているので、おのおのについて用いられている漢語の比較をしてみる。（カタカナをつけない漢字はすべて音読される。）

1. 文語訳 （日本語「新約聖書改訳」日本聖書協会、1948年初版、1954年第5版、朝鮮語「新約聖書 付詩篇」大韓聖書公会、1955年）

<u>節</u>	<u>日 本 語</u>	<u>朝 鮮 語</u>
13	地	世上
	もし	万一
	ノチ（後）は	後には
	用	ssŭl-de（使いみち）
14	ヨ（世）	世上
	ヤマ（山）	山
	マチ（町）	洞-ne（むら）
15	トモシビ（燈火）	燈-bul（bul=火）
	燈台	燈檠
16	オコナイ（行為）	行実
	天	ha-nŭl（そら）
	アガ（崇）めんタメ（為）	栄光 ^{かえ} を返さんと
17	オキテ（律法）	律法
	予言者	先知者
	コバ（毀）つために	廃せんと
	オモ（思）ふな	生覺すな

	コバ（毀）たんと	廃せんと
	成就	完全せんと
	マコト（誠）に	真実に
	天地	天地
18	ス（過）ギユ（往）かぬうちに	なくなる前には
	オキテ（律法）	律法
	一点	一点
	一画	一画
19	イマシメ（誠命）	誠命
	（イマシメ）の	（誠命）中に
	いと	至極に
	モノ（者）	者
	天国	天国
	オコナ（行）ひ	行し
	モノ（者）	者
	天国	天国
20	義	義
	学者	書記官
	パリサイビト（人）	パリサイ人
	天国	天国
漢語		34
（重複語を一語と数えて）		13
		28

2. 口語訳

節	日本語	朝鮮語
13	地	世上
	役	ssŭl-de（使い途）
14	ヨ（世）	世上

	ヤマ (山)	山
	マチ (町)	都市
15	あかり	燈-bul (bul=火)
	燭台	燈檠
16	おこない	行実
	あがめる	栄光を返す (帰する) ^{かえ}
17	律法	律法
	予言者	予言者
	廃する	廃する
	オモ (思) っては	生覚しては
	廃する	廃する
	成就	完成
18	よく (言っておく)	真情で (真正?)
	天地	天地
	律法	律法
	一点	一点
	一画	一画
	——	決-ko (決して)
19	いましめ	誠命
	(いましめ) の	(誠命) 中の
	天国	ha-nŭl-na-ra (そら (の) くに)
	これを	誠命を
	天国	ha-nŭl-na-ra (そら (の) くに)
20	義	義
	律法学者	律法学者
	パリサイビト (人)	パリサイ派びと
	義	義
	決して	決-ko (決して)

天国		ha-nŭl-na-ra (そら (の) くに)
漢語計	19	28
(重複語を ¹) 語として)	14	22

調査の範囲が狭いので、これだけの結果からは、断定できないが、おおよそ次ぎのような推測が可能であると思う。

1. 一般に朝鮮語では漢語起源の語彙が日本語よりもかなり多い。
 2. 古い文体（文語体）では、特にこの傾向が強い。
 3. 新しい文体（口語体）の場合、朝鮮語では漢語がかなり減少している。
- これに対し日本語では殆ど変りがない。

以上の3点のうち、第3の点が特に重要である。ハングルの普及、漢字の追放の大勢と併行して、漢語的表現を固有語におきかえる傾向（たとえば、天国→そらのくに、また私の見聞した例では駅などの「出口」を na-ga-nŭn gos〈出ていく所〉と標示ししあった。）が著るしいことと、一方日本語よりも遥かに大きい比重を漢語が占めてきたことを考えあわせると、漢語という点から見た朝鮮語は、特にその語彙の面で今後も大きな変化を遂げていく可能性がある。日本語でもこのような動きは現在も進行中であるが、朝鮮語に比べると漢語の整理はかなり進んでいると思う。遠い展望において考えれば、それぞれの言語に完全に同化した漢語（聴覚印象が直接観念と結合しているもの）が生き残り、新しい言語の実情に即して造語能力を拡大していくことであろう。この点で、或程度の制限を加えながらも漢字そのものを使用している日本語と、漢字を廃して漢語をもハングル（表音文字）で表記しようとする朝鮮語との間に、微妙な相違が生じてくることは避け難い。国語問題の重要な一面をなす漢字漢語の問題について、朝鮮語の動向は日本語の将来を考えるとときにも大いに示唆するところがあると思う。

c. 朝鮮語の漢語用法は漢文により近い

この論文の第1節でも述べたように、朝鮮語の漢語の構造は、日本語のそれと共通する面が多い。漢字1字を中心とする語が日本語より多いのは事実であるが、それにしても漢語の圧倒的多数は、漢字2字より成立していることは、日本語と同様である。また、漢字三字以上を語幹とするものについても、鉄面皮、定足数、必然的、重要性、護衛兵などや、夫唱婦随、千姿万態、半信半疑、厚顔無恥など、その構造が一致するものが多い。更に専制+国家→専制国家、秘密+投票→秘密投票、東亜+辞書+出版+社→東亜辞書出版社、不+注意→不注意、無+関心→無関心などのように、漢語の構成原理についても日朝両語は共通している。

しかし、この節のb. で見たように、朝鮮語の方が漢語が豊富であるので、一般的原理は共有しながらも、朝鮮語はおのずから独自の漢語用法を発達させている。それは要約すれば、中国語（漢文）の構造に一層近いということである。たとえば、次のような語は日本語では音読してそのまま使われることはない。

或是 (hog-si 万一、もし)、或如 (hog-yŏ 或いは、もしくは)、其他 (gi-ta その他)、亦是 (yŏg-si やはり)、若是 (yag-si このように) 但 (dan ただし)

また漢語の構造を保って、ただ活用語を添えるものもある。

不惜-ha-da (bul-sŏg 惜しまない、フセキする) 不少-ha-da (bul-so 少なくない、フショウだ) 無父母-ha-da (mu-bu-mo 父母がいない、ムフボだ)、無復余地-ha-da (mu-bu-yo-zhi くりかえす余地がない、ムフクヨチだ)

その他、不知其数、不遠将来、不遠千重など、二重否定表現の場合に特にいちじるしい。また、無不通知、無不干涉、無所不至、無所不為などは、それぞれ、「知らないことはない」「干涉しないことはない」「いたらざるはない」「なさざるはない」ということで、実際には、「すべてを知っている」「すべてに干涉する」「もれなく行きわたる」「なんでもする」という意味である。日本語式に用いれば、ムフツウチだ、ムフカンショウな、ムショフジに、ムショフイの、という語感である。

それでは、次のような表現は何を意味するのであろうか。

フブンジョウゲの精神、シュブソクトウして喜ぶ、ムコクシミンだ、チチフシンの工事……

これらはそれぞれ「不分上下」「手舞足踏」「無告之民」「遲遲不振」の意味であり、日本語では一部を訓読して用いるものもある。

このような漢語使用の特色は、朝鮮語における漢文の読み方に由来する。朝鮮語では日本語のように返り点をつけて漢文を読み下す習慣はない。漢文の各節を単位として音読し、そのあとに吐 (to) と称する簡単な送り仮名を添えるだけである。

たとえば

国破山河在城春草木深

- ① ^{クニヤブ} 国破 ^{サン カ ア} レテ山河在リ、
^{シロハル} 城春 ^{ソウモクフカ} ニシテ草木深シ
- ② 国破山河在 (gug-pa-san-h-a-zhā)-han-de
城春草木深 (sǒng-chun-cho-mug-sim)-i-ra
- ③ コッパサンカザイして
ジョウシュンソウモクシンなり

争名者於朝争利者於市

- ① ^ナ 名ヲ争フ者ハ朝ニ於テシ
^リ 利ヲ争フ者ハ市ニ於テス
- ② 争名者 (zhāng-mǐyǒng-zha)-nǔn 於朝 (ǒ-zho)-ha-go
争利者 (zhāng-ri-zha)-nǔn 於市 (ǒ-si)-ni-ra
- ③ ソウメイシャはオチョウして
ソウリシャはオシす

子曰学而時習之不亦悦乎

- ① ^シ子^ノ曰^ク、^{マナ}学^ビテ^{トキ}時^{コレ}ニ^{ナラ}之ヲ^{マタヨロコバ}習^フ
亦悦シカラズヤ
- ② 子曰 (zha-wal) 学而時習之 (hag-i-si-sǔb-zhi)-myǒng
不亦悦乎 (bul-yǒg-wǒl-ho)-a
- ③ シエツ、ガクジジシュウシ (セ) ば
フェキエツコかな

不患人之不己知患不知人也

- ① ^{ヒト}人^{オノレ}ノ^シ己ヲ^{ウレ}知^ラザルヲ^{ヒト}患^シヘズ
人ヲ知^ラザルヲ^{ウレ}患^{フル}ナリ
- ② 不患人之不己知 (bul-hwan-in-zhi-bul-gi-zhi)-ha-go
患不知人也 (hwan-bul-zhi-in-ya)-ra
- ③ フカンジンジフコチして
カンフチジンヤなり

これはすでに漢文の直読直解方式と言ってもよいほどである。したがって耳できいただけでは理解が非常に困難であるのは言うまでもない。日本語の漢文読下し方式にしたがえば、文章の理解という点では朝鮮式より容易である。しかしその半面、漢字のもつ種々のニュアンスを充分把握できないという憾みがある。たとえば「スナワチ」には、乃、仍、而、即、便、則、廼、迺、就、曾、輒など種々の字があてられているが、これらはいずれも意味を多少なりとも異にしている。また、而、於、者、也、焉、矣などは時によっては読まれないうこともある。これに対し朝鮮語では一字一字を音読するので、最初のうちは「素読」と同様に意味がわからなくても、馴れるにしたがって各語のもつ微細な意味合いをも含めて漢文の句、節を全体として理解できるようになる。(一定の学習過程を経て急に漢文の意味を把握できるようになることを、古来「文意が通じた」と呼んでいる。)

次ぎにあげる例は、このような漢文の読み方の直接の影響である。

甚至於 (sim-zhi-ŏ) はなはだしくは

期於 i, 期於 go (gi-ŏ-) きっと, ぜひとも

非但 (bi-dan) ただ (～ではない)

姑捨 ha-go (go-sa-) (～は) さておいて

何必 (ha-pil) 何ぞ必ずしも, よりによって

何如間 (ha-yŏ-gan) とにかく, いずれにせよ

下不下 (ha-bul-ha) 少くとも

于先 (u-sŏn) とりあえず, まず

なお国語辞典には次のような語句もある。これらはすべて活用語尾をとることもできる。

一言以蔽之 ir-ŏn-i-pe-zhi

危在朝夕 wi-zhă-zho-sŏg

吾不関焉 o-bul-gwan-ŏn

不問可知 bul-mun-ga-zhi

(用例)

一言以蔽之 ha-myŏn 一言で言えば (イチゲンイヘイシすれば)

吾不関焉 han 態度 知らぬ振り (ゴフカンエンな態度)

gŭ-rŏn gŏs-ŭn 不問可知 ha-da. そんなことはきかなくてもわかる (フモ
ンカチだ)

ここで、漢語の用法とは直接関係がないが、朝鮮語の談話の中での漢字の示しかたについて、ついでに触れておきたい。たとえば日本語で「トウカイドウ (東海道) は漢字でどう書くか」とたずねれば、「トウキョウ (東京) のトウと、ニッポンカイ (日本海) のカイと、ドウロ (道路) のドウ」のように、問題となる漢字を含んだ、よく知られた漢語を引き合いに出して示すか、それとも「ヒガシという字, ウミという字, ミチという字」のように訓読みの形を使っ

て示すのが普通である。一方、朝鮮語では漢字を示すときに、この2つの方法を常に並用する。たとえば「東海道」に対しては、「dong-nyŏk dong (東), ba-da hä (海), gil do (道)」のようにして示す。これは「ひがしトウ、うみカイ、みちドウ」というのに相当する。(「東」の場合は「ヒガシ」にあたる固有語が今では用いられないので、東側(トウがわ)のような言い方になっている。) しかもこのような漢字の指し方は、日本語のようにルーズではなく(たとえば「東」はトウザイナンボク(東西南北)のトウとして示すこともできる)、慣習的に一定していると考えられる。次ぎはその若干の例である。

<u>漢字</u>	<u>示し方</u>	<u>相当する日本語</u>
車	車 (cha) su-re	シャくるま
宿	宿 (sug) zhal	シュクやどる
亀	亀 (gwi) gŏ-bug	キかめ
易	易 (i) swi-ul	イたやすい
乾	乾 (gŏn) ha-nŭl	ケンそら
内	内 (nä) an	ナイうち

しかし、訓読みに相当する固有語が見当たらないときには、次ぎのように、漢字を漢字(又は漢語)で示すという方法を用いる。

<u>漢字</u>	<u>示し方</u>	<u>相当する日本語</u>
悪	悪 (ag) ag-hal	アクアクする
北	北 (bug) bug-nyŏk	ホクホクがわ(側)
差	差 (cha) cha-dŭng	ササトウ(差等)
契	契 (gye) mun-sŏ	ケイブンシヨ(文書)

朝鮮語の漢字指示のこのような慣習は、訓読みの慣習がないことに対するいわば代替現象である。漢字は本来表意文字であるから、意味を度外視した用法は成立し得ない。日本語と朝鮮語は、漢字のひとつひとつに、対応する固有語をあてるという原則においては同じであるが、実際の言語使用の中にそれを応用するかどうかという点で異なっているにすぎない。

以上は、現代朝鮮語に限って漢語用法の特色を日本語と比較したものである。時代を遡れば、朝鮮語には日本語と同じように漢字、漢語の訓読みや、漢字の音のみを利用して固有語を表記する方法も行なわれていた。原理としては日本語の万葉集などの表記方法に似ている。漢語の読み方や用い方について日朝両語の史的比較を試みるのも興味深いと思う。

最後に、本稿の執筆にあたっては、朝鮮語の漢文の読み方や漢字の指示方法について、韓国大邱市在住の李 楨鎬氏の御教示に負うところが絶大である。この稿の末尾を借りて感謝の意を表したい。

(1971年10月初旬)